

平成29年第4回糸魚川市議会定例会会議録 第3号

平成29年6月19日(月曜日)

議事日程第3号

平成29年6月19日(月曜日)

〈午前10時00分 開議〉

日程第1 会議録署名議員の指名

日程第2 一般質問

本日の会議に付した事件

日程第1 会議録署名議員の指名

日程第2 一般質問

〈応招議員〉 20名

〈出席議員〉 20名

1番	平澤 惣一郎 君	2番	東野 恭行 君
3番	山本 剛 君	4番	吉川 慶一 君
5番	五十嵐 健一郎 君	6番	滝川 正義 君
7番	佐藤 孝 君	8番	新保 峰孝 君
9番	田原 実 君	10番	保坂 悟 君
11番	笠原 幸江 君	12番	斉木 勇 君
13番	中村 実 君	14番	大滝 豊 君
15番	田中 立一 君	16番	古川 昇 君
17番	渡辺 重雄 君	18番	松尾 徹郎 君
19番	高澤 公 君	20番	吉岡 静夫 君

〈欠席議員〉 0名

〈説明のため出席した者の職氏名〉

市 長 米田 徹 君 副 市 長 織田 義夫 君

副市長	木村 英雄 君	総務部長	金子 裕彦 君
市民部長 会計管理者兼務	岩崎 良之 君	産業部長	斉藤 隆一 君
総務課長	山本 将世 君	企画財政課長補佐	嵐口 守 君
定住促進課長	斉藤 喜代志 君	能生事務所長	土田 昭一 君
青海事務所長	井川 賢一 君	市民課長	池田 正吾 君
環境生活課長	五十嵐 久英 君	福祉事務所長	水嶋 丈明 君
健康増進課長	横澤 幸子 君	交流観光課長	渡辺 成剛 君
商工農林水産課長	池田 隆 君	建設課長	見辺 太 君
復興推進課長	斉藤 孝 君	会計課長	丸山 幸三 君
ガス水道局長	木村 清 君	消防長	大滝 正史 君
教育長	田原 秀夫 君	教育次長 教育委員会子ども課長兼務	佐々木 繁雄 君
教育委員会子ども教育課長	山本 修 君	教育委員会生涯学習課長 中央公民館長兼務 市民図書館長兼務	渡辺 孝志 君
教育委員会文化振興課長 歴史民俗資料館長兼務 長者ヶ原考古館長兼務	磯野 茂 君	監査委員事務局長	大嶋 利幸 君

〈事務局出席職員〉

+

局長	小竹 和雄 君	次長	松木 靖 君
係長	山川 直樹 君		

+

〈午前10時00分 開議〉

○議長（五十嵐健一郎君）

おはようございます。

これより本日の会議を開きます。

欠席通告議員はありません。

定足数に達しておりますので、直ちに会議を開きます。

日程第1．会議録署名議員の指名

○議長（五十嵐健一郎君）

日程第1、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員には、4番、吉川慶一議員、14番、大滝 豊議員を指名いたします。

日程第2. 一般質問

○議長（五十嵐健一郎君）

日程第2、一般質問を行います。

6月16日に引き続き、通告順に発言を許します。

東野恭行議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

東野議員。〔2番 東野恭行君登壇〕

○2番（東野恭行君）

おはようございます。新人で清政クラブの東野恭行です。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

1、糸魚川市駅北復興まちづくりに関する提言書（案）の重点プロジェクトについてお伺いします。

(1) 大火に負けない消防力の強化プロジェクト。

- ① 主な施策に常備消防及び消防団の装備や体制の強化とあるが、どのように装備を充実させ、どのように体制を強化していくのか。
- ② 消防団において充実しなければならない装備品の洗い出しの方法をどのように考えるか。
- ③ 現状、消防団員確保が困難な中で、どのような体制の強化を図るのか。

(2) 大火を防ぐまちづくりプロジェクト、糸魚川らしいまちなみ再生プロジェクトについてです。

- ① 大火を防ぐまちづくりプロジェクトの目的として、本町通りを延焼遮断帯として機能させるとともに、地域全体の建築物の不燃化を促進しますとあるが、計画地域だけで取り組む施策とするのか。市全体の取り組みとして将来支援の考えはあるのか。
- ② 糸魚川らしいまちなみ再生プロジェクトの主な施策に、外装に統一感を持った住宅や店舗の建築への支援とあります。これらのプロジェクトは計画対象地域全体で取り組む施策とあるが、民間への働きかけはどのようにするのか。

(3) にぎわいのあるまちづくりプロジェクト。

- ① ビジネスチャレンジ支援事業の拡充とあり、創業支援に関しては手厚い支援とを感じるが、現時点での創業支援事業の反響はどうか。
- ② 既存企業の経営改善計画に基づいて、誘客や店舗改装・多店舗展開などの「企業努力」に対する支援事業は考えておられるか。「拡充」と表記されていることから、復興にあわせ、既存のAからCパターン以外で市独自の新たな制度をつくることは可能か。
- ③ 金融機関や民間企業との連携で、「購入型クラウドファンディング（物品やサービスを返礼）」の推奨は考えているか。クラウドファンディングを活用し、資金を集めるのはあくまで民間企業や地域活動団体等であるとするが、行政として組成費用以外に「利用推奨」を促す手だては考えているか。

(4) 暮らしを支えるまちづくりプロジェクト。

- ① 幅広い世代が安心して生活できる住環境を提供するとともに、コミュニティ豊かにいきいきと住み続けられるまちをつくとあるが、公営住宅の整備を行い福祉施設等の連携で住環境を整えるとなると、対象は主に高齢者と考えているのか。
 - ② 30年先も持続可能なまちを目指す中で、①の環境整備を行うことで被災後のまちに定着するであろうイメージをどのように考えているか。
 - ③ 幅広い世代が安心して生活できる住環境を提供するとあるが、利用していただくであろう方にどのような条件で、どのように訴求していくのか。また、民業を圧迫する可能性はないのか。
- (5) 大火の記憶を次世代につなぐプロジェクト。
- ① 市民と来訪者が集まる防災とにぎわいの拠点施設とあるが、現段階の計画ではどのようににぎわいを生み出し、継続していくイメージなのか。地方創生には資金調達を可能とする事業開発が必要であると考えが、この拠点は誰が運営し、誰がにぎわいを創出する施設となるのか。また、その施設は30年持続可能か。
 - ② 被災されたエリア近郊、エリア内に住む方の理解は進んでいるのか。

2、糸魚川市空家等対策計画について。

(1) 空家等対策の基本方針に対応する施策体系。

- ① 空家等の利活用の促進とあるが、空き家等に関する補助事業がUIターン者を見込んだ上での制度が主であり、実績はどの程度あるのか。駅北大火被災前の状況をお伺いしたい。
- ② 煩雑な空き家バンクの運営を一般社団法人に委託されたが、その後の運営費以外の「補助拡充」が空き家活用活性の肝となると考えるがいかがか。
- ③ 空き家・空き店舗の活用法として、空き家のオーナーまたは地域活動団体が主体となっ
て行う、地域コミュニティの活性化を目的とした「地域貢献活用策」に対する補助は考え
があるか。
- ④ 30年後も持続可能なまちを目指す中、これから建築する物件を「空き家」にしないた
めの施策を考えているのか。平成27年施行の空家等対策の推進に関する特別措置法を踏
まえ、建てる段階での提案が必要となると考えるがいかがか。
- ⑤ 現在、小学校等公共施設の「空き家」はどのくらいあり、利活用策は考えておられるか。

1回目の質問を終わります。よろしくお願ひします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

おはようございます。

東野議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目の1つ目につきましては、気象状況に応じた初動体制と強風下における消防活動要領を新たに策定し、要領に基づいた訓練を重ね、体制を強化してまいります。

2つ目につきましては、今回の大火の教訓を生かして、安全装備品の充実強化を図っております。

3つ目につきましては、消防団拠点化計画を推進し、消防署及び自主防災組織との連携により、

即時対応力の強化に努めてまいります。

2点目の1つ目につきましては、まず先行して、本庁通りの延焼遮断帯の形成と被災地域の建築物の不燃化に対する支援を考えております。将来的には、被災地以外の木造住宅密集地域につきましても建築物の不燃化に対する支援策を検討いたしております。

2つ目につきましては、商工会議所や商店街組合と連携をし、調査・検討をしてまいります。

3点目の1つ目につきましては、個別に相談を受けており、多くの皆様によりご利用いただいております。

2つ目につきましては、被災地周辺も含め、町なかを歩いて回遊性を高めるような取り組みを支援してまいります。

3つ目につきましては、大火後、クラウドファンディング活用支援事業として、被災事業者と特別枠を設けて拡充をしたところであり、今後は、周知や活用のサポート、活用事例の紹介等を行ってまいります。

4点目の1つ目と2つ目につきましては、幅広い世代が安心して住居できる施設設備に努め、コミュニティ豊かに住み続けられるまちを目指します。

3つ目につきましては、医療や福祉、子育て施策と連動いたしまして、民間事業者の施設運営やノウハウを活用する等、官民一体となった住環境の整備に努めてまいります。

5点目の1つ目につきましては、市民交流拠点として継続したにぎわいの創出を検討してまいります。運営は、民間活力の導入も視野に入れて、来訪者、市民及び近隣住民が集う持続可能な施設として整備してまいりたいと考えております。

2つ目につきましては、今後、具体的な機能の検討と、あわせて皆様からご理解いただくよう努めてまいります。

2番目の1点目の1つ目につきましては、UIターン者の空き家バンク活用や改修補助の実績は、27年度は6件、28年度は4件であります。

2つ目につきましては、バンクへの登録物件を利活用するときは、市の各種補助制度の対象とするなど運営団体を側面的に支援して、空き家・空き店舗の利活用を図ってまいります。

3つ目につきましては、地域貢献としてどんな活動を行い、どんな支援ができるか、支援制度を検討してまいります。

4つ目につきましては、建築段階からの支援策について、今後、調査・研究してまいります。

5つ目につきましては、現在、廃校した小学校を2カ所、廃園の保育園1カ所を保有しており、28年3月に策定した公共施設等総合管理指針に基づき、検討を進めてまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますのでよろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

それではよろしくお願いいたします。2回目の質問ということで、まず、1点目の①からなんですが、どのように装備を充実させ、どのように体制を強化していくのかというところで、消防

団の現状に元住んでいた地域の消防団員がそのまま地域に名前を残し、所属していただく実態があるようでございます。そのような実態を踏まえて、消防団の拠点化計画があると思うんですが、欠員状態が続く分団の地域の状況を考えますと、行く行くは、この拠点化計画も考えていかなきゃいけないと思うんですが、人員不足に悩む現場と今まで地域において消防活動に尽力された方々の思い、そして地区に消防団を残してほしいという方がいらっしゃる中、どのように最善策を見出していくのか、お伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

大滝消防長。〔消防長 大滝正史君登壇〕

○消防長（大滝正史君）

おはようございます。

お答えします。

非常に消防団員の確保というのは、難しい問題でございます。これは当市に限らず全国的な問題でありまして、特に当市においては、中山間地域において非常に消防団員の方が減ってきているという中で、町場に出てこられても中山間地域で消防団を続けておられるというふうなところもございます。そのような中で、今、拠点化という形を進めておるわけですけれども、拠点化をするからといって、すぐ消防団の格納庫をなくするというのではなくて、それぞれの地域で、そこを維持できる状況であれば、それは存続をさせていただいた中で格納庫に2台とかという積載車を配備することによって、2人、3人ではなかなか出動できませんので、違う部であってもその格納庫へ駆けつければ1台はまず出られるというような体制というようなことで拠点化を進めておるわけでございます。そんなことで、非常に今後も消防団員の確保というところでは力を入れていかなければならないというように捉えておるところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

ありがとうございました。

続いての質問に移らせていただきますが、既に支給されている備品についてなんでございますが、駅北大火を受けて、いろんな消防団からお話を聞いたんでございますが、既に支給されている雨がっぱ、あと防災無線等の備品が、当日ちょっと役に立たなかった部分があるという、雨がっぱも本当に12時間連続してその現場に立っていた人は、もうずくずくになって、大変な思いをされたということをお聞かせておられます。分団によっては1回戻って着がえをできたところもあるんですが、分団によっては戻れない状況がある中、ちょっとずくずくになってしまったという状況がありました。

今回、私初めて、本会議というものに出させていただきますが、今回の議案第70号で防災行政無線個別受信機6,000台、2億5,790万という、こちらの案件を審議したんでございますが、我々庶民にしてみると、この2億ものお金を異議なしの一言でちょっと決裁してしまった。本当に重大な任務を異議なしということで、一言で決裁したんですが、いろいろ裁量権がある人の備品に関して情報がいないところを審議したんですけども、裁量権のある人を信用して審議させていただ

てる背景がございます。そういった中で、一番大事になってくるのが現場の実直な声かと思えます。そういったところで、装備品も今後また検討をされてると思うんですが、しっかりと製品のスペック等を検討する余地があると思えますが、現場の声を十分聞いていただいでやっていただきたいと思えますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

大滝消防長。〔消防長 大滝正史君登壇〕

○消防長（大滝正史君）

お答えします。

今ほど現場における雨がっぱとかというようなことで、着がえもなかなかできない、やはり長時間にわたる消火活動をしていただいたというふうなことで、やはりそのような状況が発生しております。それは、消防団の各部にとりか、自宅に持っておられる消防団支給の雨がっぱではなくて、会社からそのまま駆けつけたという方々もいらっしゃいます。そんなところで着がえ等についても、それから休憩についても迅速な、即という対応はできませんでしたが、途中から交代もしていただく、できたら着がえもしていただくというところでもあります。今後もそのような対策について、事前に十分対応できるように準備をしておく必要があるのかなというふうに捉えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

○総務部長（金子裕彦君）

もう一点補足して説明させていただきますけれども、防災行政無線の6,000台の取得の議案につきましては、先般の本会議では、所管の総務文教常任委員会に付託をして審議をいただいた後、本会議で議決をいただくということですので、今後、議決になるということで取り扱っておりますので、その点、補足して説明させていただきます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

ありがとうございました。まず備品購入、ちょっと話が違ったかもしれないんですけども、備品購入の決定権のある部署と現場との意思疎通を今まで以上に諮っていただきたいというふうに、そのように考えてます。

現場の要望があるタイミングと要望を受け入れられるタイミングが符号しないことが、本当、現場にとってストレスになってくると思えますので、定期的にそういった備品、例えば火災が起きた後、例えば手袋とか欠損してしまっていて使えない状況とか出てくると思えますので、そういった状況にちゃんと対応できるような、定期的に聞くタイミングを設けていただければなというふうに考えておりますので、よろしくお願ひします。

続いて、3番目の質問でございますが、消防団員の確保が困難な中で、どのような体制の強化を

図るかというところなんですけども、ある年、消防団員から現場のコミュニティは、そこにある人間関係によって持続しているというふうに聞いております。今後もそのコミュニティ、結局、今の消防団員を大切にさせていただき対応が消防団を持続していただく理由、そして、次世代につながっていく理由になると考えておりますので、命がけで糸魚川を守っていただいた消防団を、今ある消防団を大切にさせていただきたい、そのように考えておりますが、よろしくお願ひいたします。

続きまして、大火を防ぐまちづくりプロジェクト、糸魚川市まちなみ再生プロジェクトの質問に入りたいと思います。

①番の大火を防ぐまちづくりプロジェクトの目的としてというところでございますが、市全体の取り組みとして将来の支援をお考えかという質問でしたが、火災になる可能性というのは、どの地域においても同様であることから、防災につながる支援策は、広域に進めていただきたいと、そのように考えてます。大火以降のほかの地域においても火災が発生していることから、住宅密集地は、特に支援策を検討していただきたいと、そのように考えますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

見辺建設課長。〔建設課長 見辺 太君登壇〕

○建設課長（見辺 太君）

お答えします。

議員おっしゃるとおり、今回、大火で被災された場所以外にもたくさん糸魚川管内におきまして、たくさんの地域で、いろんな地域で建物が集中している場所は存在します。一般的には木造住宅密集地帯といった形で呼ばれておるところでございますが、そういったところにつきましても、どういった手だてをして、今後、火事になった場合に延焼を防ぐことができるのかといったことについて検討してまいりたいというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

ありがとうございました。

続いて、②の質問に移らせていただきます。

これらプロジェクトは、計画対象地域全体で取り組む施策等ございますが、民間への働きかけ、糸魚川市まちなみ再生プロジェクトの施策の件でございます。住宅や店舗の建築への支援でございます。民間への働きかけ、これはどのようにしていくか、いま一度お聞かせいただきたいと思いません。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

池田商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 池田 隆君登壇〕

○商工農林水産課長（池田 隆君）

現在、本町通り商店街、それから商工会議所、糸魚川市がこの3者が協力をしまして糸魚川の本

町通りの町並み、それから雁木、これをどういうふうにしていくか、現在、検討を進めております。基本的には、行政からこうなさい、ああしなさいという押しつけではなかなか物事は前に進みませんし、本町通り商店街の方がみずからこうしましょう、ああしましょうというルールをつくりながら進めていただきたいということで考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

ありがとうございます。これあくまでまだ計画案の段階なんで、計画に対しての意見でございますが、統一感のある町並み形成の必要性について、まず、説得力のある働きかけが重要になってくると思います。この文面の中に支援というふうに書いてあるんですが、計画対象地域で被災されていない、そういった場所に関しては、協力をお願いが本当必要になってくると思います。先ほどおっしゃったとおり地域活動団体と連携を図りながら進めていただきたいと思います。要望でございます。

続きまして、にぎわいのあるまちづくりプロジェクトということで、①、②番に対して再質問させていただきますが、こちら新規創業に関しては、ご商売をされたことのない方にとってリスクが高く、すごく勇気の要る行動であると考えております。経営をするに当たり、まず、この被災した場所で勝算があるかないか判断されると思います。勝算がないと判断されれば創業する人はふえず、立派な制度だけひとり歩きすると考えてます。あくまで勝算のある場所にできる可能性があるプレイヤーは、現在、商店街で頑張っておられる方々であると考えてます。被災された店舗や事業所を再建、戻ってきていただくことが最優先でございますが、復興とあわせ、まちづくりを進めていく中、創業支援の制度をやる気のある方に有効に活用していただくためにも、顔が見えて、現在、頑張っておられる商店を運営されている方々に向けた独自の制度、これから本当に必要になってくると思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

池田商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 池田 隆君登壇〕

○商工農林水産課長（池田 隆君）

議員ご案内のように、市におきましては、被災直後から被災者に対する仮設店舗の支援、それから本設に向けての支援ということで、創業支援とあわせてビジネスチャレンジ、こういうものを活用しながら支援をしております。これらについては、問い合わせもありますし、仮設店舗の設置に当たっては、かなりの方からご利用をいただいております。

また、既存企業への支援ということにつきましては、まずは復興計画を着実に市としては推進をして、そして見える形で復興に取り組んでいきたいということでもあります。現在のところ、個々への支援というのは検討をしておりますが、また商店街組合なりでまとまった取り組みをしたいということであれば、それについては検討していきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

ありがとうございました。まとまった取り組みに対しては支援も考えていただくということで、今、商店街におきましても本当にわずかなプレイヤーの中で本当にいろんな団体、いろんな所属をもってまちづくりに取り組んでおります。そういったところに行き届く限りの力強いご支援をいただきたいというふうに思いまして、提案させていただきました。よろしくお願いします。

続きましてのクラウドファンディングの件ですが、クラウドファンディングでも復興型ファンドに関しましては、効果を余り長く期待できませんので、本年度中もしくは来年中が有効に活用できる期限かなというふうに考えてます。

復興をテーマとして開催されるイベントや事業者の物品のPRにも有効な手段であると考えますので、糸魚川で活性化を目指す取り組みをふやす目的で、広報いといがわ等で利活用を推進していただきたいと考えますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

池田商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 池田 隆君登壇〕

○商工農林水産課長（池田 隆君）

議員ご提案のように、このクラウドファンディングについては情報発信もできますし、また多くのファンをつかむということにも利用できると思っております。現在、利用されておられる方、実際おられますので、こういう取り組み、それから市の支援の内容、こういうものについては、広報等も通じてもっともっと広く周知をしていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

ぜひともよろしくお願いいたします。

それでは、（4）の1番、2番、3番について再質問させていただきたいと思えます。

こちらの計画案でございますが、計画案ということで、本当に不確定要素がたくさんあるので、あくまで計画に対しての意見・提案とさせていただきますが、復興のまちづくりと合わせ、まずは居住区として価値観を高めていく必要があるんじゃないかなというふうに考えております。商店街のにぎわいは、業種によっては異なると思いますが、被災地域の方々のおかげで成り立っている部分があります。30年先を見据えた計画を立てることももちろん大事なんですけど、できる限り崩壊してしまったこのコミュニティを取り戻すべく最善を尽くしていただきたい、そのように考えています。その上で将来を見据えていただいて、そして市の新たな制度等を織りまぜながら企業や地域活動団体と連携を深め、まちづくりを進めていただきたいと考えますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

見辺建設課長。〔建設課長 見辺 太君登壇〕

○建設課長（見辺 太君）

お答えします。

議員おっしゃるとおり30年先も持続可能なまちづくりというのは、建設課としても非常に大事なことだなというふうに考えております。そんな中で、じゃあどうやってまちづくりをしようかといったときに、今現在の被災された方というのは、非常に高齢の方が多くて、約50%が65歳以上であり、75歳以上が約3割おられるといったお話もお聞きしております。そういった中で持続可能なまちづくりをするためには、やはり幅広い世代の方に住んでいただく必要があるというふうに思っております。そのときに、今現在、被災者の方で被災地に戻られない方もおられるというふうにお聞きしておりますが、どういった形で住宅、住環境を整えれば、そういった幅広い世代の方が集まってきて、コミュニティを継続していただけるのかといったことを考えながら計画を策定してまいりたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

ありがとうございました。選挙のときから訴えてきたことですが、本当に崩壊してしまったコミュニティ、1人でも多く戻ってきていただきたい、そのように考えておりますので、最善を尽くしていただきたい、そのように思います。

続きまして、大火の記憶を次世代につなぐプロジェクトの再質問でございます。

拠点整備についてですが、誰が運営し、誰がにぎわいを創出するのか、こちらも30年継続可能かということで、再質問させていただきますが、昨年末の駅北大火、消防団員、消防団の命がけの消火活動、糸魚川市民を含めた全国からの温かい義援金や支援金によるご支援、ボランティアに携わっていただいた方々の温かいご支援、そして涙ながらに安倍総理に訴えていただいた米田市長の行動、行政職員の皆様による被災された方に寄り添った献身的な対応、皆様の支えでこの糸魚川は成り立ってるなど感じました。そして、今後のまちづくりに関しても全国から注目を集めていると考えます。

ただ、この大火の記憶を次世代につなぐプロジェクトに関しては、被災された方の意見を十分に聞く必要があると考えてます。これからは形だけにとらわれず、プレイヤーが明確なまちづくりを進めていく必要があると考えております。数字を語れるような拠点施設でなければならないと考えてますし、拠点施設は、この商店街の今後においても必要な、にぎわいの拠点になると思います。

ただ、つくるのであれば糸魚川市民に愛され、必要とされる施設でなければならないと思いますし、維持管理費だけがかかり、地域の人たちが集まらない、そういった施設になってしまったら、本当に観光客すら集まらなくなってしまうと思います。今月の28日が復興検討委員会の最終日となりますが、しっかりと意見を聞いていただき、反映していただきたい、そのように思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤 孝君登壇〕

○復興推進課長（斉藤 孝君）

今、ご提言いただきましたように、にぎわいの拠点の施設につきましては、今のお話のような部分を十分に心にして、取り組んでいく必要があるというふうに考えております。復興まちづくり計画の中の3つの柱、災害に強いまち、住み続けられるまち、にぎわいのあるまち、この3つの方針を中心としながら、今その施策をどのように反映するかという6つの重点プロジェクトを動かし始めております。

被災地には、もともと非常にすばらしい資源が多くあったと私も思っております。海があったり、それから雁木の町並みがあったり、それらの中心地にあった資源をみんなが一体となって総力を挙げて、これからまちづくりを進めていく必要があるというふうに考えております。復興計画は、今のところは、今お話のように6月28日に提言書として出てまいります。それらをやはり皆さんと一体となって、実行部隊として取り組んでいく必要があるとも考えておりますし、そのように取り組んでまいります。よろしくお願ひします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

ありがとうございました。重点プロジェクトに関しましては、先ほども申し上げましたとおり、まだ計画案というところがございますので、慎重に審議していく部分これから出てくると思いますが、自分も責任者としてしっかり糸魚川の将来、見守りたいですし、プレイヤーとなって活動したいというふうに考えております。

続きまして、空き家対策の件でございますが、（1）の②番、一般社団法人に委託された件でございますが、今後、運営費の補助・拡充が空き家活性の肝となるというふうに考えるかという質問でございました。

再質問でございますが、物件の販売価格が上昇しないようにインスペクション費用を補助するなど、国土交通省が、今後進めていきます中古住宅のブランド化、安心R住宅がことしの夏をめどに告示されるようでございますが、そちらとあわせて補助整備をぜひ進めたい、進めていただきたいと考えますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

斉藤定住促進課長。〔定住促進課長 斉藤喜代志君登壇〕

○定住促進課長（斉藤喜代志君）

おはようございます。

今のご質問にお答えいたします。

我々、今、定住促進課では、UIターンの方々が空き家を活用できるようにということで、いろんな支援策を展開しております。

ただ、UIターン以外で、やはり国土交通省としてのこういった空き家の中古物件の流動化を進めていきたいという施策を今後展開していくということで、いろいろ動きがあるというふうにも考えておりますし、一部空き家の活用等については、国土交通省のほうでも補助事業等がございます。

そういった流れを見て、我々のほうでも中古住宅や空き店舗といった、こういった中古物件の流動化がどういうふうになれば進むのか、その辺を今回の社団法人さんとよく相談しながら、今後またその政策について検討していきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

ありがとうございました。中古物件なんですけど、買いたいという人よりも圧倒的に売りたいというニーズが多いと考えるので、中古物件を買いたいお客様の多様性に柔軟に対応できるのが民間企業だと思っておりますし、この一般社団法人、本当に設立して間もないんですが、有効に情報を共有しながら進めていただきたいですし、市としてもスピーディーにお力添えしていただいて対応していただきたい、そのように思っております。

続いて、③番の地域貢献活用策に対する補助はお考えかというところでございますが、空き店舗活用、空き家活用の事例をつくるべく地域活動団体が主となり、しっかりと目的を共有してリフォーム、リノベーション、コンバージョンなどを行い、シャッターを開けていただいて、行く行くは広く活用していただく、そういった活用事例が一般社団法人世田谷区トラストまちづくりという事業団体に活性化事例があるんですが、空き家等を地域資源として有効に活用することで、地域の人々が緩やかにつながりを持ちながら、ともに暮らしていける地域コミュニティの活性化、再生、目的化、こういったところで空き家の活用につなげておるんですけど、オーナー利用団体とのマッチングに取り組んでいるということでございます。こういった活性化事例も実際ございますし、糸魚川市でもそういった制度等を活用していただいて、今現在、糸魚川でも空き家等を使って活動する団体あるかと思いますが、人に対しても支援強化等、まずその市としてもこういった事例がありますよという広報が重要になってくるかと思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

齊藤定住促進課長。〔定住促進課長 齊藤喜代志君登壇〕

○定住促進課長（齊藤喜代志君）

お答えいたします。

今ほどの、やはり空き家・空き店舗等については、地域資源として考えるというその考え方は、非常に重要なことではないかというふうに私どもも考えております。そういうふうにするには、やはりPR活動等も大事ですし、何しろその地域に住まわる方々が、やはりそういった目でそういったものを見ていただけるような環境づくりというのが、我々行政としてはやっていかなければならないことではないかなというふうに考えております。これらについては、何か1つの事例をつくるとか、少しでもいいのでそういったものが活用できるような場づくりができればと。例えば町の茶飲み場とかというのが新潟市等でも行われておりますけど、そういったところに地域の皆さんがちょっと、空き家なんですけどお茶を飲むだけに集まるみたいな、そういったのも1つの事例ではないかなというふうにも考えております。そういったことが積み重ねていくと、地域の資源であるという考えが広がっていくのではないかなというふうにも考えておりますので、これらも含めて社団

法人さんともやりながら、あと地域の皆さんとも話し合えるところがあればそういった活用に向けていきたいと、あわせてPRをしていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

ありがとうございました。私がお店を営んでる白馬通りにも実際、空き店舗がございまして、オーナーさんがぜひ活用したい、そのような意欲を見せていただくんで、これからそういったとこと、そういった方とどういうふうにかかわっていくか、どういうふうを活用していけるかというところを可能性を追求しながらプレイヤーとなって活動していくことが重要なと思いますので、またお力添えいただきたいと思います。よろしくお願いします。

続きまして、最後になりますが、これから建築する物件を空き家にしないための施策をお考えかという質問でございますが、まずは本当に、のべつ幕なし行政にお願いするわけではございませんが、こちら民間企業や金融機関と協調して、考えていく必要があると考えます。糸魚川市空家対策の計画の中に、年度ごとに効果の検証と課題の整理を行い、継続的に取り組みを改善しますとございますが、多岐にわたる空き家問題をこのたび結成された一般社団法人を大いに後押しして取り組んでいただきたいと重ねてお願い申し上げます。売り手も買い手も行政も喜ぶ、この三方よしで進めていただきたいと考えておりますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

斉藤定住促進課長。〔定住促進課長 斉藤喜代志君登壇〕

○定住促進課長（斉藤喜代志君）

お答えいたします。

建てる段階からの空き家物件がふえないというような流れというのは、なかなか難しいのではないかなと思いますけど、ただ先ほどもありました中古物件の流動化とかということには、融資制度の改変等についても国土交通省またいろいろと考え、施策を展開しようとしております。そういったあたりを注視しながらできることをしていけばいいかなというふうにも考えております。何しろ今回の社団法人につきましては、やはり今まで糸魚川市が行政として空き家バンクを運営、そして空き家の活用等をなるだけ進めようとやっておりましたが、やはり行政ではできる範囲というのは非常に限られております。それを社団法人さんのほうが中心になって運営していただけることで、民間の情報やそういった力、また、そういったことが我々の思っている情報等そういったものと合わせながら、それと市の支援策とも合わせて、より一層の空き家の活用というのが進められればなというふうに私どもも考えておりますので、手を携えて頑張っていきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

ありがとうございました。高齢化と同様に空き家の問題ずっとついて回る問題と捉えております。本当この一般社団法人って本当にできたばかりなんでございますが、勉強していただいて最大限生かしていただいて、明るいまちづくりにつなげていただきたい、そのようにお願い申し上げて、私の一般質問を終了させていただきます。

○議長（五十嵐健一郎君）

以上で、東野議員の質問が終わりました。

関連質問はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

関連質問なしと認めます。

暫時休憩します。10時55分まで休憩します。

〈午前10時46分 休憩〉

〈午前10時55分 開議〉

○議長（五十嵐健一郎君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、佐藤 孝議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

佐藤議員。〔7番 佐藤 孝君登壇〕

○7番（佐藤 孝君）

新人、日本共産党の佐藤 孝です。

発言通告書に基づき、初質問をさせていただきます。よろしく願いいたします。

1、交通対策について。

昨今、高齢者事故の増加で、運転免許返納の動きが出てきているようですが、高齢者にとっても、移動手段の確保は大変大事な問題です。

新幹線騒音の問題とあわせて、以下の3点について伺います。

(1) 高齢者の運転免許返納の課題と対策について。

(2) お出かけパスの利用状況と対応について。

(3) 北陸新幹線の騒音等対策の取り組みについて。

2、少子化対策・若者定住対策について。

「統計いといがわ」によると、1人当たり市民所得は、1人当たり国民所得の90%に届かない状態です。また、非正規労働者がふえていて、男性の非正規労働者の既婚率は正規労働者の既婚率の約半分と言われています。

少子化対策には、若者の労働環境の改善や、子育て世帯の経済的な応援がどうしても必要と思いますが、以下の点について伺います。